



平成24年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成24年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 丸井グループ
 コード番号 8252 URL <http://www.0101maruigroup.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月9日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 青井 浩
 (氏名) 村井 亮介

TEL 03-3384-0101

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	306,736	0.2	14,804	36.3	14,185	41.6	3,828	29.4
23年3月期第3四半期	306,207	2.1	10,858	66.2	10,019	64.3	2,957	6.1

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 6,539百万円 (72.1%) 23年3月期第3四半期 3,800百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	13.99	13.81
23年3月期第3四半期	10.80	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第3四半期	637,648	287,587	45.0	1,049.34
23年3月期	628,910	284,885	45.2	1,039.50

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 287,217百万円 23年3月期 284,526百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期		7.00		7.00	14.00
24年3月期		7.00			
24年3月期(予想)				7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	412,000	1.4	17,000	14.9	16,000	13.6	5,000		18.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	318,660,417 株	23年3月期	318,660,417 株
24年3月期3Q	44,947,209 株	23年3月期	44,946,398 株
24年3月期3Q	273,713,625 株	23年3月期3Q	273,716,621 株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は実地中です。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提その他の関連する事項につきましては、四半期決算短信[添付資料4ページ]「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間の経営環境は、東日本大震災の影響により落ち込んだ景気が穏やかに持ち直し、個人消費も一部に回復がみられたものの、歴史的な円高の進行や欧州債務危機による海外景気の下振れ懸念、また依然として厳しい雇用情勢など、先行き不透明な状況が続きました。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、これまですすめてきたお客様ニーズに基づく商売を継続・強化し、年齢の枠を超えた幅広い年代のお客様にご支持いただくことで、客層ならびに客数の拡大による売上高の回復をはかりました。また、当社の基本戦略である「店舗・カード・Web」の三位一体化を推進し、経営資源を最大限に活用することで収益力の向上をめざしてまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間の連結売上高は306,736百万円（前年同期比0.2%増）となり、販管費を継続的に見直した結果、営業利益は14,804百万円（同36.3%増）、経常利益は14,185百万円（同41.6%増）、四半期純利益は3,828百万円（同29.4%増）と増収増益となりました。

事業別の状況

(小売事業)

小売事業では、お客様ニーズに基づく商売をすすめ、客層と客数の拡大に取り組むとともに、自主・PB商品の拡大による収益力の向上につとめてまいりました。

まず、商品面では、お客様ニーズにお応えするため、お客様と共同開発した新PB商品の展開を推進しました。快適性や機能性を重視した婦人靴の「ラクチンきれいパンプス」や婦人靴の「ラクチン快適バッグ」が引き続き大変ご好評をいただき、また今秋には新たに婦人服の「ラクチン綺麗パンツ」や紳士靴、紳士靴の販売も開始しました。展開商品の拡大にともない「ラクチン」シリーズへのお客様の注目度が着実に高まり、販売実績は従来PB商品を大幅に上回って推移しております。

丸井店舗では、サイズ対応や品揃えの見直しなど、個店ごとの独自の取組みをすすめるとともに、Webサイトのご案内やEメールを活用した各ショップからのタイムリーな情報発信を強化するなど、お客様の利便性の向上をはかりました。

このような施策により、30歳以上の客数が高伸長し、既存店のお買上客数は前年同期比2%増と、第3四半期累計期間では2008年度より4期連続で前年を上回りました。

通信販売では、Web通販のご利用客数が順調に拡大するとともに、一型当たり売上高の拡大に取り組んだことで、在庫の効率化や販管費の減少により収益力の改善がすすみました。

出店につきましては、4月に関西地区で3店舗目となる「京都マルイ」を開店いたしました。当社がすすめてきたお客様参加型の商売を店づくりに活かしたことにより、開店以来、幅広い年代のお客様にご来店いただくことができました。

さらに、新PBが牽引し自主売場の荒利率が改善したことで、10月以降の小売事業の荒利率が下げ止まったことや、コスト面では、新店費用はあったものの、既存店舗の設備費や運営コストの見直しを継続して実施し、収益確保につとめた結果、小売事業の営業利益は5,855百万円（同93.2%増）と大幅な増益となりました。

(カード事業)

カード事業では、お客様ニーズに対応した施策によるご利用客数の拡大と、三位一体化による収益力の向上に取り組みました。

新規カードの発行は、新開店した「京都マルイ」で多くのお客様にご入会いただいたことに加え、8月から全店で開始した新しい入会特典「2,000円クーポン」の導入効果もあり、第3四半期累計期間の発行枚数は51万枚、前年同期比17%増と高伸長しました。また、ご利用額の多いゴールドカードやデザインカード会員が着実に増加するとともに、4月には「エポスプラチナカード」の発行を開始し、当社独自のカードによるお得意様づくりをすすめました。

三位一体化の取り組みでは、当社の強みであるカードの店頭即時発行や、オンラインサービス「エポスネット」の丸井店舗での登録促進により、期末のネット会員数は269万人に拡大し、ネット登録率は55%にまで高まりました。また省資源への対応として、ご利用明細のWeb化の取組みをすすめたことで、環境への配慮とローコストな運営を推進しました。

このような施策により、カードのご利用客数が着実に増加し、加盟店でのショッピングクレジットの取扱高は3年連続で3割増と好調に推移し、また、キャッシングとともにカード事業の新たな柱となるショッピングクレジットのリボ・分割払債権の残高は1000億円を超えるまでに拡大しております。

以上の結果、カード事業については、総量規制によるご利用制限の影響などによりキャッシング収入が減少したため減収となりましたが、債権内容の改善による貸倒費用の減少もあり、営業利益は9,430百万円（前年同期比12.9%増）と第3四半期累計期間では4期連続の増益となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期末における総資産は前期末に比べ8,737百万円増加し、637,648百万円となりました。これは主に、改正貸金業法の影響により営業貸付金が22,601百万円減少した一方、エポスカードのご利用客数の拡大や加盟店でのご利用実績の伸長などにより割賦売掛金が28,593百万円増加したことによるものです。

負債合計は6,036百万円増加し、350,060百万円となりました。これは主に、季節要因により買掛金が10,481百万円増加した一方、有利子負債の総額が4,888百万円減少したことによるものです。

純資産は287,587百万円となり、自己資本比率は45.0%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

改正法人税法および復興財源確保法が12月に公布され、翌期において法人税率の引下げ等の変更が行なわれるため、実効税率の見直しによる繰延税金資産の計上額の減少など、当期における税金費用の増加影響等をおり込み、平成23年11月11日に公表した通期の業績予想を以下のとおり修正いたします。

(連結業績予想)

	前期実績	前回発表予想	今回修正予想	対前期増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	406,472	412,000	412,000	1.4
営業利益	14,795	17,000	17,000	14.9
経常利益	14,088	16,000	16,000	13.6
当期純利益	△ 23,638	7,000	5,000	-
1株当たり当期純利益	-	25.57円	18.27円	-

2. サマリー情報(その他)に関する事項**(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用**

税金費用の計算

税金費用の計算については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(2) 追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,615	41,205
受取手形及び売掛金	5,009	4,296
割賦売掛金	111,760	140,353
営業貸付金	158,707	136,105
商品	24,476	26,213
その他	22,243	23,937
貸倒引当金	△12,890	△9,900
流動資産合計	341,923	362,213
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	81,788	76,384
土地	98,470	98,280
その他（純額）	7,198	6,175
有形固定資産合計	187,456	180,840
無形固定資産	7,435	6,901
投資その他の資産		
投資有価証券	18,743	17,120
差入保証金	44,913	43,347
その他	28,438	27,224
投資その他の資産合計	92,095	87,693
固定資産合計	286,987	275,434
資産合計	628,910	637,648

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	23,822	34,304
短期借入金	51,260	36,371
1年内償還予定の社債	—	35,000
1年内償還予定の転換社債	39,532	39,532
コマーシャル・ペーパー	20,000	—
未払法人税等	320	4,967
賞与引当金	4,044	2,052
ポイント引当金	1,310	1,356
商品券等引換損失引当金	141	146
その他	17,309	22,515
流動負債合計	157,740	176,245
固定負債		
社債	67,000	52,000
長期借入金	86,900	96,900
利息返還損失引当金	25,100	18,117
その他	7,284	6,798
固定負債合計	186,284	173,815
負債合計	344,024	350,060
純資産の部		
株主資本		
資本金	35,920	35,920
資本剰余金	91,307	91,307
利益剰余金	214,711	214,707
自己株式	△53,888	△53,888
株主資本合計	288,051	288,047
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3,525	△829
その他の包括利益累計額合計	△3,525	△829
少数株主持分	359	369
純資産合計	284,885	287,587
負債純資産合計	628,910	637,648

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
小売事業売上高	245,994	248,706
小売事業売上原価	176,968	179,575
小売事業売上総利益	69,026	69,131
カード事業収益		
消費者ローン利息収入	22,291	18,411
割賦手数料	8,112	10,192
その他	5,666	7,479
カード事業収益合計	36,070	36,083
小売関連サービス事業収益	24,143	21,945
小売関連サービス事業原価	19,268	16,796
小売関連サービス事業総利益	4,874	5,149
売上総利益	109,971	110,364
販売費及び一般管理費	99,112	95,560
営業利益	10,858	14,804
営業外収益		
受取利息	130	120
受取配当金	442	431
固定資産受贈益	592	290
その他	468	555
営業外収益合計	1,633	1,398
営業外費用		
支払利息	1,908	1,700
その他	564	316
営業外費用合計	2,473	2,016
経常利益	10,019	14,185
特別利益		
固定資産売却益	90	1,403
投資有価証券売却益	828	—
前期損益修正益	295	—
特別利益合計	1,215	1,403
特別損失		
固定資産除却損	364	861
投資有価証券評価損	4,322	6,305
投資有価証券売却損	4	—
たな卸資産評価差額	757	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	545	—
その他	—	143
特別損失合計	5,994	7,309
税金等調整前四半期純利益	5,240	8,279
法人税等	2,259	4,435
少数株主損益調整前四半期純利益	2,980	3,844
少数株主利益	23	15
四半期純利益	2,957	3,828

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,980	3,844
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	819	2,695
その他の包括利益合計	819	2,695
四半期包括利益	3,800	6,539
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,777	6,523
少数株主に係る四半期包括利益	23	15

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	小売事業	カード事業	小売関連 サービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	245,994	36,070	24,143	306,207	—	306,207
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,697	2,925	12,941	19,563	△19,563	—
計	249,691	38,995	37,085	325,771	△19,563	306,207
セグメント利益	3,030	8,355	1,131	12,518	△1,660	10,858

(注) 1 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去1,780百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,440百万円です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	小売事業	カード事業	小売関連 サービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	248,706	36,083	21,945	306,736	—	306,736
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,190	1,895	14,335	20,421	△20,421	—
計	252,896	37,979	36,281	327,157	△20,421	306,736
セグメント利益	5,855	9,430	1,583	16,869	△2,065	14,804

(注) 1 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去1,616百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,497百万円などです。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。